

間交流の輪

初めての
森林保全活動

日本たばこ産業(株)との森を守る取組

日本たばこ産業株式会社（JT）との「北海道企業の森林づくり事業・森林保全協定」に基づく、JT社員とご家族、町民の皆さんとの交流活動が、去る6月4日、JTの森・美国川流域エリアで開催されました。※1

1日100本、100本の植樹

記念すべき第1回目の交流活動には、志水JT副社長や神後志総合振興局長も来町され、松井町長とともに記念植樹を行い交流活動の始まりを祝いました。その後、190名の参加者全員で、先に東日本大震災被災地での仮設住宅用資材（杭丸太）などのために伐採された跡地に、トドマツ1、100本を植樹し、心地よい汗を流しました。

森での課外授業

昼食後は、町の河村博・地域おこし協力隊員（水産科学博士）から、森と川と海の関わり、サクラマス²の生態と遡河回遊魚の生物ポンプ²の働きについての講話を受けた後、グループ毎に森の散策、枝打ち体験や丸太伐り体験をしました。

体験活動は、後志総合振興局森林室や石狩森林管理署の職員が指導役となり行われるとともに、活動の間には、風で倒れた木とその周りで始まっている新たな木々の生長、鹿が角を研いだ木の様子など森林の中で育

まれる生物の営みについての説明も行われ、参加者は、役場の裏山につながるカラマツの町有林で、目の前で見る森林の中での多様な生物の関わりを実感しながら、興味深げに聞き入っていました。

山海の幸で町をPR

参加者の昼食は、積丹観光協会の皆さんが地元食材で作ったホットケのすり身汁やフライ、タケノコとフキの煮物などを用意し、参加者からは「美味しい」と大好評でした。また、ホットケ

の開きやウニ加工品、珍珠などの販売も好評で、積丹町の山海の幸をJT社員の皆さんにPRする機会にもなりました。

今後の交流活動が楽しみ

今後、JT社員の皆さんとの交流を通して、積丹町をPRしていくとともに、森林保全活動の交流と併せ、新しい積丹ファロンとして様々な形での交流の展開に期待を寄せています。

今秋には2回目の活動が行われる予定です。町民の皆さんの積極的な参加をお願いします。

参加者の感想

「植樹は足元が不安定で大変だったけれど、丸太切りはすごく楽しかったです。」

（美国町 鈴木琴乃さん=写真）

「森が海を、海が森を育む環境循環に親子共々、感心いたしました。また今度、機会があれば家族で参加したいと思いました。」

（美国町 鈴木良治さん）



「北海道での植林活動は初めてで、はりきって参加しました。小学5年生になる息子は植林活動だけでなく、サンショウウオの卵を触ったり、セミ

の抜け殻を見つけたりと、普段はできない体験ができて喜んでいました。」

（JT北海道支店営業部 河村 勝さん=写真）



1 JTの森詳細は H23広報しゃこたん 1月号に掲載
2 生物ポンプについては H21広報しゃこたん10月号に掲載

20年目の 北と南の交流

高知県香美市との姉妹都市交流

広がる地域



高知県香美市・北海道積丹町
姉妹都市盟約調印式

高知県香美市との交流が始まり20年、姉妹都市盟約を締結し10年を経過したのを記念し、6月9日から12日にかけて、町内での記念行事や札幌市でのYOSAKOIソーラン祭りへの合同チームによる参加などが行われました。

相互の一層の 友好を誓い

6月9日、積丹町総合文化センターにおいて、門脇香美市長、西村同市議会議長など香美市訪問団6名、本町からは松井町長、岩本町議会議長など20名が出席し、「香美市」「積丹町」との姉妹都市盟約調印式が行われました。門脇市長、松井町長が盟約書に署名し、これまでの20年の交流を礎に、友好と繁栄を一層推進し、交流の発展を誓いました。

よさこいソーランど 交流の始まり

調印式終了後には、この日、東京から出席していただいた、長谷川岳参議院議員による、「北と南の交流の軌跡」と題した講演会が行われました。

長谷川参議院議員は、両市町の交流のきっかけとなった、第1回YOSAKOIソーラン祭り開催にあたってのエピソード



などを紹介するとともに、「北と南、離れた地域間の交流だからこそ生かせる利点がある。両市町の交流は、今後の地域間交流のお手本にもなるのではないかと」と両市町の交流に応援の言葉をいただきました。



太鼓と踊りの交流

翌、10日には、総合文化センターを会場に、山田太鼓伝承会の皆さんによる熱気あふれる太鼓演奏、香美市の舞踊グループ・紫苑流の皆さんによる「高知夢音頭」・「土佐山田小唄」のほか、合同チームによるYOSAKOIソーラン祭りの演舞が披露されました。

会場を埋めつくした約2000人の観衆からは、大きな声援とアンコールがかかるなど、太鼓と舞踊による交流の夕べは盛況の中、終了しました。

松井町長は、「これまで中谷馬場、白鳥、益子と歴代の町長が引き続がれてきた香美市との交流が20年、姉妹都市盟約を交

わしてから10周年を迎えることができたのは、感慨深いものがあり、交流を続ける原動力となった町内の関係者、そして香美市の皆さんに深く感謝したい。ソーラン節とよさこい鳴子踊りの交流は、今後も絶やすことなく続け、積丹町と香美市の絆を一層深めていきたい。」と、今後の交流への期待と決意を述べました。



第20回 YOSAKOI ソーラン祭り

積丹町と香美市合同チーム

3歳から81歳までカー杯の演舞を披露

6月11・12日の両日は、札幌市内6会場で、他の参加チームとともに演舞を披露しました。

露し、各会場で大きな拍手と声援をいただきました。

第1回目から参加している唯一のチームとしての誇りを胸に、幼児などを含む積丹町50名と香美市27名、計77名の踊り子チームは、「ソーラン節」と「よさこい鳴子踊り」により構成された楽曲に乗り、軽快な鳴子の拍子、踊り子たちの笑顔そして子ども達の可愛いかげ声により、ソーラン踊りとよさこい鳴子踊りをミックスした両市町の踊りを披



交流 20年の軌跡

香美市との出会いと交流の始まり（平成4年）

ソーラン節のふるさと・積丹町とよさこい鳴子踊りの本場・高知県香美市の出会いは、平成4年。当時、北大生だった現参議院議員長谷川岳氏が、積丹町と香美市（当時は土佐山田町）を訪れたことがきっかけとなり、両市町の職員間の交流から、まちおこしグループ、産業団体、小学校などの各方面への交流へと広がりをみせました。

合同チーム結成（平成7年）

YOSAKOIソーラン祭りへは、両市町が単独チームにより参加していましたが、平成7年から平成23年まで「ヤールンソーラン積丹町&香美市」チームとして17年連続出場、この間3度の北海道知事賞を受賞しています。

相互訪問によるイベント参加（平成9年）

平成9年からは、積丹町で開催される「ソーラン味覚祭り」、香美市で開催される「刃物まつり」へ、お互いの訪問が行われるようになり、「土佐打刃物」と「カツオたたき」の販売は、ソーラン味覚祭りの恒例となり、広く町民の皆さんに親しまれています。

「香美市」・「積丹町」の一層の交流発展を

YOSAKOIソーラン祭りをきっかけに始まった民間レベルでの継続的な交流の積み重ねにより、姉妹都市連携の気運が高まり、平成14年6月、土佐山田町と積丹町の姉妹都市締結が行われ、平成23年6月、改めて「香美市」と「積丹町」の姉妹都市盟約締結が行われました。

香美市の概要



〈面積〉 538.22km²

〈人口〉 27,996人

（平成23年5月1日現在）

〈産業〉 農業/林業/工業

〈市の花〉 あじさい 〈市の木〉 すぎ

〈市の鳥〉 かわせみ

香美市は高知県の東北部に位置し、四国山地南嶺から高知平野に至る物部川上中流域を占め、県都高知市からも近い位置にあります。

物部川、国分川の源流域から高知平野に至る変化に富んだ市域を有しており、東北部は、四国の屋根を構成する四国山地に含まれ、1,000m~1,800mの急峻な山並みが続いています。

平成18年3月1日に土佐山田町、香北町、物部村の2町1村が合併して香美市が誕生しています。

